

## 履修科目及び単位認定に関する細則

### (趣旨)

第1条 この細則は、江戸川看護専門学校学則（以下「学則」という）第15条、第17条及び第18条の規定に基づき、授業科目の履修及び単位修得等に関し、必要な事項を定める。

### (履修科目)

第2条 学則第15条の規定に基づく本校の履修科目は、細則別表1のとおりとする。

2 実習の履修に際し、予め認定されていることが望ましい科目については、細則別表2に示す。

### (単位修得)

第4条 学則第17条の規定に基づく単位の認定にあたっては、本則第18条に定める成績評価により履修した科目を合格し、別に定める認定会議において科目単位の認定を得なければならない。

2 学則第17条及び第18条の規定に基づき一度修得した単位及び成績は、取り消すことができない。

### (試験)

第5条 学則第18条に定める成績評価のために行う試験（以下「試験」という。）は、原則として当該試験の対象となる授業科目が終了した後に行う。ただし、授業科目によっては、その他適切な時期に行うことがある。

2 試験は、筆記試験（臨地実習にあつては実習評価表）、レポート、口述又は実技試験等により行う。

3 次の各号に該当する者は、当該各号に定める授業に係る試験を受験することができない。

(1) 講義及び演習において、授業時間数の3分の1以上を欠席した者は、当該科目について前項に規定する試験を受けることができない。ただし、校長が特にやむを得ないと認める理由により欠席したときは、この限りでない。

(2) 臨地実習において、実習時間数の5分の1以上を欠席した者は、当該科目の終了を認定されない。ただし、校長が特にやむを得ないと認める理由により欠席したときは、この限りでない。

### (追試験)

第6条 病気その他やむを得ない事情により試験を受けることができなかった者は、次項に定める願い出により追試験を受けることができる。

2 追試験を希望する者は、前項に定めるやむを得ない事情を証明する書類（細則別記第11号様式）及び追試験料等を添え、校長に願い出なければならない。

3 追試験の評価は80%で算出する。

### (再試験・再実習)

第7条 試験又は臨地実習の結果、試験又は実習評価が合格点に満たなかった者は、別に定める認定会議の承認を得て、再試験・再実習を受けることができる。この場合において、再試験・再実習に合格した者の成績は60点とする。

2 本校は、再試験対象者を、試験の答案用紙の返却をもって通知する。再実習対象者にあつては、実習終了後、評価表をもって通知する。

3 再試験又は再実習を希望する者は、届け出書類（細則別記第12号又は第13号様式）及び再試験・再実習料金等を添え、校長に願い出なければならない。

4 本校は、再試験の結果を答案用紙の返却をもって通知する。再実習の結果にあつては、実習終了後、

評価表をもって通知する。

**(試験時の不正行為)**

第8条 本校は、試験に際し不正行為を行った者については、直ちに当該者の答案を没収し、学則第25条の規定により懲戒の対象とする。

**(再履修)**

第9条 履修科目の単位が認定されなかった者が、翌年度以降においてその履修科目の単位を修得しようとするときは、再履修願（細則別記第14号様式）を届け出なければならない。

**(成績評価)**

第10条 本則第18条に定める成績評価は、細則別表3のとおりとし、S、A、B、C及びDで表す。

2 試験（追試験を含み、再試験を除く。）の成績評価については、Sは90点以上（追試験の場合を除く。）、Aは80点以上90点未満（追試験の場合にあつては80点以上）、Bは70点以上80点未満、Cは60点以上70点未満、Dは60点未満とする。この場合において、60点以上を合格とし、60点未満又は再試験届未提出者を再試験対象者とする。

3 再試験の成績評価については、60点以上をCとし、60点未満をDとする。この場合において、Cを合格とし、Dを不合格とする。

附則 この細則は平成27年4月1日から施行する。

附則 この細則は平成27年12月1日から施行する。

附則 この細則は平成31年4月1日から施行する。

附則 この細則は令和3年4月1日から施行する。

細則別表1 「履修科目」

区分	教科内容	科目	単位数	時間数	1年次	2年次	3年次
基礎分野	科学的思考の基礎	学習と文章	1	30	30		
		論理的思考	1	30	30		
		生活科学概論	1	30	30		
		看護情報学	1	30	30		
		心理学	1	30	30		
		教育学	1	30		30	
		生物学	1	30	30		
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	30	30		
		コミュニケーション論	1	15	15		
		カウンセリング	1	15		15	
英語		1	30	30			
社会学		1	30	30			
専門基礎分野	人体の構造と機能	看護形態機能学	1	30	30		
		解剖生理学Ⅰ	基礎知識 消化器 内分泌	1	30	30	
		解剖生理学Ⅱ	呼吸器 循環器 血液	1	30	30	
		解剖生理学Ⅲ	腎泌尿器 運動器 生殖器	1	30	30	
		解剖生理学Ⅳ	脳神経 感覚器 皮膚	1	30	30	
		生化学	1	15	15		
		栄養学	1	15	15		
		臨床栄養学	1	15		15	
		病理学総論	1	15	15		
		疾病と治療Ⅰ	消化器 内分泌 歯・口腔	1	30	30	
疾病と治療Ⅱ	呼吸器 血液 感染症	1	30	30			
疾病と治療Ⅲ	循環器 腎泌尿器 生殖器	1	30	30			
疾病と治療Ⅳ	運動器 自己免疫 皮膚	1	30	30			
疾病と治療Ⅴ	脳神経 眼 耳鼻咽喉	1	30	30			
薬理学	1	30	30				
微生物学	1	30	30				
健康支援と社会保障制度	現代医療論	1	15	15			
	公衆衛生	1	15		15		
	社会福祉	1	15		15		
	関係法規	1	15		15		
	看護と法律	1	15		15		
看護倫理	1	15	15				
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	30		
		共通基本技術Ⅰ	環境 コミュニケーション 学習支援	1	30	30	
		共通基本技術Ⅱ	ヘルスアセスメント	1	30	30	
		共通基本技術Ⅲ	安全・安楽 感染予防	1	30	30	
		日常生活援助技術Ⅰ	活動・休息 食事 排泄	1	30	30	
		日常生活援助技術Ⅱ	衣生活・清潔	1	30	30	
		診療補助技術Ⅰ	与薬 呼吸循環を整える技術	1	30	30	
		診療補助技術Ⅱ	生体機能管理 救命救急処置 創傷管理	1	30	30	
		看護過程	1	30	30		
		臨床看護総論Ⅰ	1	30	30		
臨床看護総論Ⅱ	1	30		30			

区分	教科内容	科目	単位数	時間数	1年次	2年次	3年次	
分野Ⅰ	専門実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45			
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90		90		
成人看護学	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
		成人看護学方法論Ⅰ	慢性期	1	30		30	
		成人看護学方法論Ⅱ	急性期・回復期	1	30		30	
		成人看護学方法論Ⅲ	周手術期	1	30		30	
		成人看護学方法論Ⅳ	終末期・緩和ケア	1	30		30	
		成人看護学方法論Ⅴ	看護過程	1	15		15	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30			
		老年看護学方法論Ⅰ	看護技術	1	30		30	
		老年看護学方法論Ⅱ	健康障害と看護	1	30		30	
		老年看護学方法論Ⅲ	看護過程	1	15		15	
小児看護学	小児看護学概論	1	30		30			
	小児看護学方法論Ⅰ	健康障害と看護①	1	30		30		
	小児看護学方法論Ⅱ	健康障害と看護②	1	30		30		
	小児看護学方法論Ⅲ	看護技術・看護過程	1	15		15		
母性看護学	母性看護学概論	1	30		30			
	母性看護学方法論Ⅰ	健康維持・増進と看護	1	30		30		
	母性看護学方法論Ⅱ	健康問題と看護	1	30		30		
	母性看護学方法論Ⅲ	看護過程	1	15		15		
精神看護学	精神看護学概論	1	30		30			
	精神看護学方法論Ⅰ	健康障害の理解	1	30		30		
	精神看護学方法論Ⅱ	健康障害と看護	1	30		30		
	精神看護学方法論Ⅲ	看護過程	1	15		15		
臨地実習	成人看護学実習	成人看護学実習Ⅰ	慢性期	2	90		90	
		成人看護学実習Ⅱ	急性期・回復期	2	90		90	
		成人看護学実習Ⅲ	終末期・緩和ケア	2	90		90	
		老年看護学実習Ⅰ	慢性期	2	90		90	
		老年看護学実習Ⅱ	急性期・回復期	2	90		90	
		小児看護学実習	2	90		90		
		母性看護学実習	2	90		90		
		精神看護学実習	2	90		90		
		在宅看護論	在宅看護総論	1	15		15	
			在宅看護方法論Ⅰ	看護活動①	1	30		30
在宅看護方法論Ⅱ	看護活動②		1	30		30		
在宅看護方法論Ⅲ	看護過程		1	15		15		
在宅看護学実習	2		90		90			
統合分野	看護の統合と実践	医療安全	1	30		30		
		看護管理	1	15		15		
		看護研究	1	15		15		
		災害看護・国際看護	1	30		30		
		看護技術の統合	1	30		30		
		在宅看護論実習	2	90		90		
	実習	統合実習	2	90		90		
		合計	101	3030	1155	1065	810	

細則別表 2 「臨地実習における科目履修の条件」

科目名	履修科目	認定科目
基礎看護学実習 I	看護学概論 共通基本技術 I・II 日常生活援助技術 I・II	
基礎看護学実習 II	共通基本技術III 診療補助技術 I・II 看護過程 臨床看護総論 I	基礎看護学実習 I
成人看護学実習 I 老年看護学実習 I・II	臨床看護総論 II 成人看護学概論 成人看護学方法論 I・II・III・IV・V 老年看護学概論 老年看護学方法論 I・II・III	基礎看護学実習 II
成人看護学実習 II・III		成人看護学実習 I 老年看護学実習 I・II
小児・母性・精神・ 在宅・統合	小児看護学概論 小児看護学方法論 I・II・III 母性看護学概論 母性看護学方法論 I・II・III 精神看護学概論 精神看護学方法論 I・II・III 在宅看護総論 在宅看護方法論 I・II・III	成人看護学実習 I 老年看護学実習 I・II

細則別表 3 「成績評価」

判定	評価	学科試験	追試験	再試験
合格	S	100 ~ 90 点	<del>追試験</del>	<del>再試験</del>
	A	89 ~ 80 点	80 点	<del>再試験</del>
	B	79 ~ 70 点	79 ~ 70 点	<del>再試験</del>
	C	69 ~ 60 点	69 ~ 60 点	100 ~ 60 点
再試験対象者又は 不合格	D	60 点未満	60 点未満	60 点未満